

【定点把握対象感染症発生状況(定点医療機関あたり患者数)】

小児科定点(7医療機関)

疾病名称\週	2019年				
	17	18	19	20	21
RSウイルス感染症	0.43	0.14	0.14	0.00	0.00
咽頭結膜熱	0.43	0.14	0.71	0.14	0.57
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.86	1.00	0.71	2.14	1.86
感染性胃腸炎	17.43	2.71	7.00	10.57	8.57
水痘	0.00	0.00	0.57	0.43	0.43
手足口病	0.00	0.00	0.29	0.29	2.14
伝染性紅斑	0.86	0.29	0.14	0.43	0.71
突発性発しん	0.57	0.00	0.57	1.00	0.71
ヘルパンギーナ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14
流行性耳下腺炎	0.29	0.00	0.00	0.00	0.00

インフルエンザ定点(11医療機関)

疾病名称\週	2019年				
	17	18	19	20	21
インフルエンザ	2.27	0.27	0.55	1.09	1.82

眼科定点(2医療機関)

疾病名称\週	2019年				
	17	18	19	20	21
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性角結膜炎	0.00	0.00	0.50	1.50	1.00

※定点医療機関あたり患者数とは

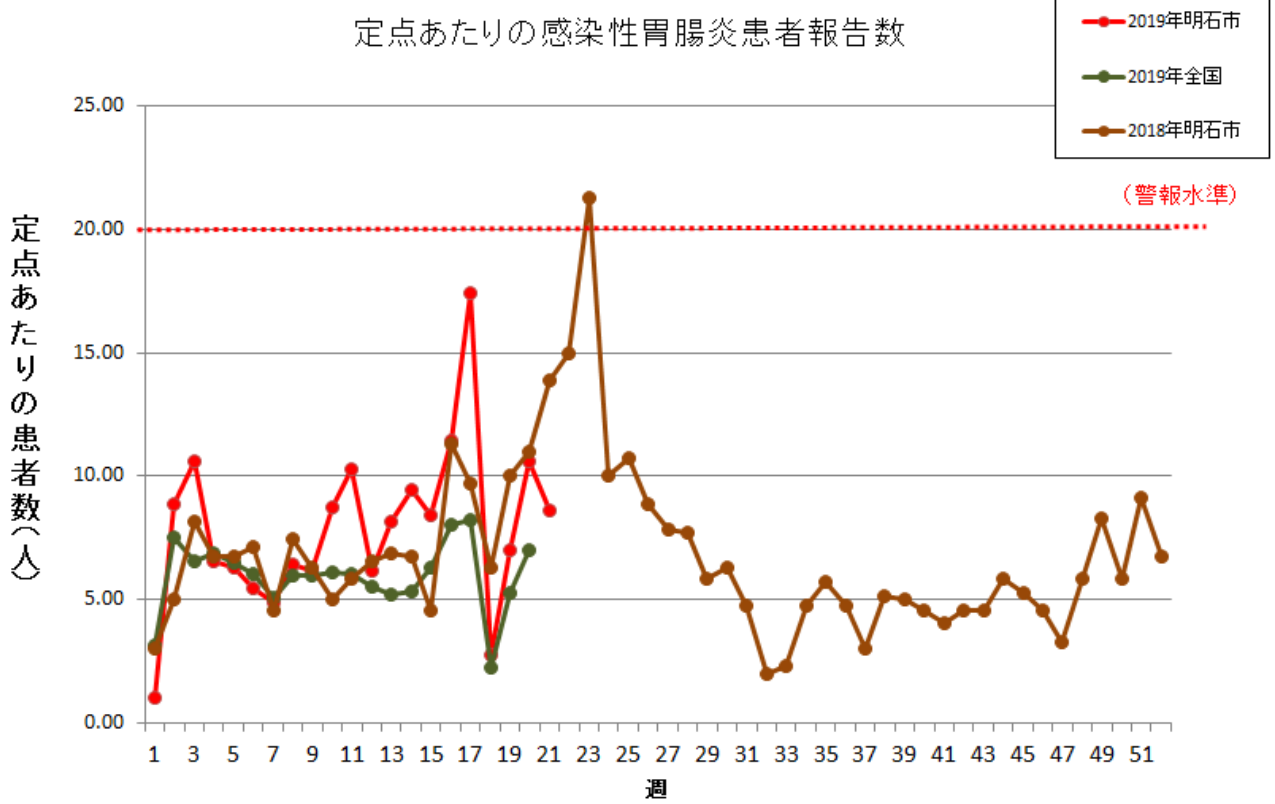
定点医療機関とは、保健所に一定の基準に従い、感染症の発生状況を報告してもらう医療機関のことです。

また、定点医療機関あたり患者数とは、一週間に一つの定点医療機関から、どのくらいの報告があったかを表す数値で、この数値によって各地での感染症の流行を把握することができます。

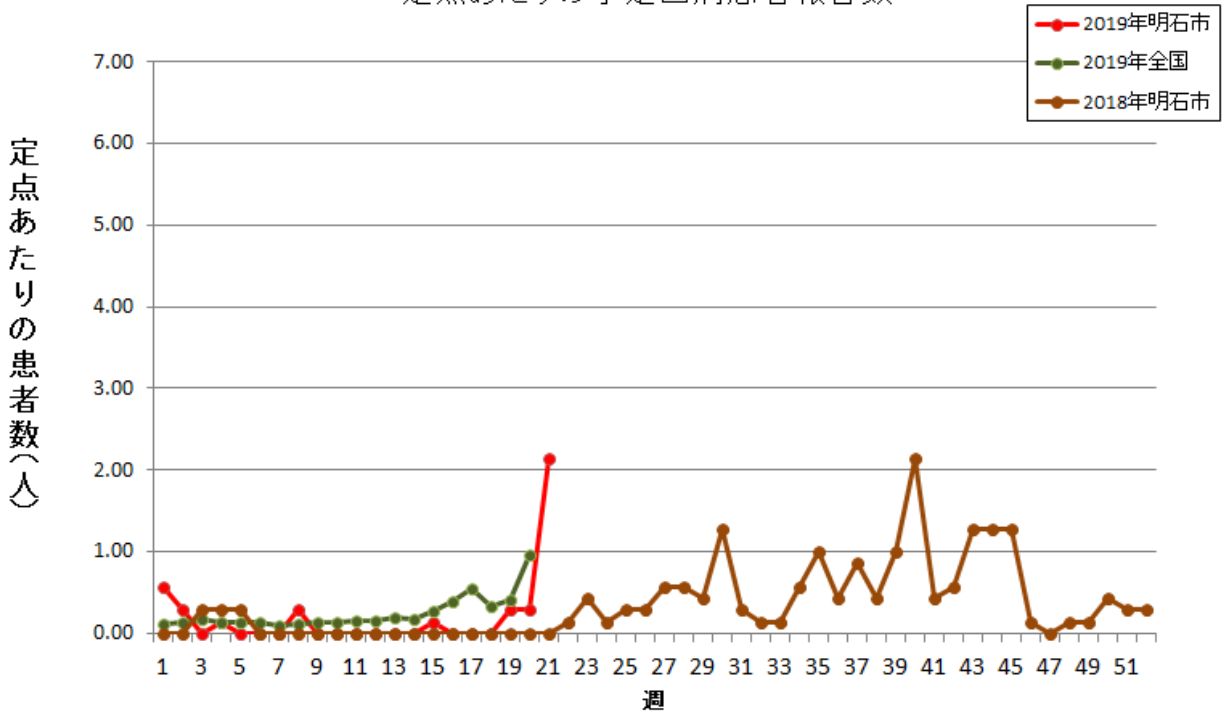
たとえば、あかし保健所管内で感染性胃腸炎の報告が合計20件あったとすると、定点医療機関あたりの患者数は、報告数(20件)をあかし保健所管内の定点医療機関数(7医療機関)で割り算をします。そうすると、定点医療機関あたりの患者数が計算できます。

この場合は、 $20 \div 7 = 2.86$ となります。

定点あたりの感染性胃腸炎患者報告数



定点あたりの手足口病患者報告数



【全数把握対象感染症発生状況】

感染症分類	疾病名称\週	2017年	2018年	2019年					
				17	18	19	20	21	1週～累計
二類	結核	69	79					1	15
三類	腸管出血性大腸菌感染症	2	11				1		1
	細菌性赤痢		1						0
四類	E型肝炎		1						0
	デング熱		1						0
	日本紅斑熱		1						0
	レジオネラ症	3	12		2				3
五類	アメーバ赤痢	2	3						0
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎、E型肝炎を除く)	1	1						0
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		2		1				1
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	23	1	1	2		1	10
	梅毒	8	11						3
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	5	2						1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	3						0
	水痘(入院例に限る)								0
	後天性免疫不全症候群	1	2					1	1
	播種性クリプトコックス症	1	0						1
	百日咳※	-	3					1	10
	麻疹	2	1						1
	風しん		3						0

※百日咳は2018年1月1日から五類感染症の全数届出対象となりました。

全国で風しんの患者数が増加しています

2019年第20週(5月13日~5月19日)に国内で55人が風疹と診断され報告されています。
第1~20週の風しん累積患者報告数は1,565人となり、第19週の1,486人から79人増加しました。
兵庫県内でも第20週までに40人報告されています。今後も感染拡大する恐れがあり、注意が必要です。

主な症状について

- ・ 高熱、淡く赤い全身性の発疹、耳の後ろ等のリンパ節の腫れが主な症状です。
- ・ 症状が出ない場合(不顕性感染)や、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人が発症した場合、高熱や発しんが長く続いたり、関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。
- ・ 妊娠20週頃までの妊婦が風しんウイルスに感染すると、出生児が先天性風しん症候群を発症する可能性があります。

予防方法について

- ・ 風しんの予防接種(主に接種されているのは、麻疹風しん混合ワクチン)が最も有効な予防法です。
- ・ 既に妊娠している場合は、予防接種を受けることが出来ませんので、風しん流行時には外出を避け、人込みに近づかないようにするなどの注意が必要です。
- ・ また、同居者に風しんにかかる可能性の高い方(例えば風しんワクチンの2回接種を完了していない方で、医療従事者や教育関係者など風しんウイルスに曝される可能性が高い者など)がおられる場合は、予防接種についてご検討ください。